

アイヌ施策推進地域計画 中間目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	(中間) 目標年度
旭川市	旭川市アイヌ施策推進地域計画	令和4年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における (中間) 目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%) B / A	備考
博物館入館者数 【関連事業】 ・チセの保存活用 ・博物館収蔵アイヌ資料の整備推進	29,710 人	26,056 人	88%	
博物館におけるアイヌ文化関連事業の 参加者数(延べ) 【関連事業】 ・アイヌ文化関連講座の実施 ・アイヌ民族音楽会の開催 ・体験学習に使用できるアイヌ民族資料 の製作 ・アイヌ学習プログラムの推進	5,830 人	2,371 人	41%	
生活館におけるアイヌ文化関連講習会 の受講者数(延べ) 【関連事業】 ・アイヌ文化関連講習会の実施	1,060 人	784 人	74%	
観光入込客数 【関連事業】 ・アイヌ自身によるアイヌ文化紹介の小 冊子の制作 ・知里幸恵顕彰事業の実施 ・アイヌ語地名の普及促進 ・「アイヌ文化ふれあいまつり」の開催 ・「アイヌ文化に親しむ日」の実施 ・観光受入体制の充実 ・観光イベントにおけるアイヌ文化の発信 ・アイヌ文化施設の整備 ・上川アイヌ聖地の観光案内整備	600 万人	160 万人	27%	令和3年 度数値

市民生活館利用者数 【関連事業】 ・アイヌ文化関連講習会の実施 ・生活館の整備	27,630 人	13,925 人	50%	
--	----------	----------	-----	--

アイヌ施策推進地域計画における (中間) 目標	達成状況	備考
博物館入館者数 【関連事業】 ・チセの保存活用 ・博物館収蔵アイヌ資料の整備推進	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により来館者が見込みを下回ったため、目標値の達成には至らなかった。	
博物館におけるアイヌ文化関連事業の参加者数(延べ) 【関連事業】 ・アイヌ文化関連講座の実施 ・アイヌ民族音楽会の開催 ・体験学習に使用できるアイヌ民族資料の製作 ・アイヌ学習プログラムの推進	新型コロナウイルス感染症拡大の影響による密の回避のため、募集人数の制限やイベントのオンライン開催という対策を講じたことに伴い、目標値を達成できなかった。	
生活館におけるアイヌ文化関連講習会の受講者数(延べ) 【関連事業】 ・アイヌ文化関連講習会の実施	新型コロナウイルス感染症拡大の影響による密の回避のため、対策として募集人数を制限したため、目標値を達成できなかった。	
観光入込客数 【関連事業】 ・アイヌ自身によるアイヌ文化紹介の小冊子の制作 ・知里幸恵顕彰事業の実施 ・アイヌ語地名の普及促進 ・「アイヌ文化ふれあいまつり」の開催 ・「アイヌ文化に親しむ日」の実施 ・観光受入体制の充実 ・観光イベントにおけるアイヌ文化の発信 ・アイヌ文化施設の整備	新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による人流の抑制、往來の自粛要請などの影響により、目標値の達成には至らなかった。	

・上川アイヌ聖地の観光案内整備		
市民生活館利用者数 【関連事業】 ・アイヌ文化関連講習会の実施 ・生活館の整備	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により来館者が見込みを下回ったため、目標値の達成には至らなかった。	

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、中間目標についてはいずれも達成することができなかったが、今後は新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けされることに伴い、最終目標の達成に向け、事業を効果的に行うための企画検討とPRを積極的に進める必要がある。

## 2. (中間) 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

### (1) チセの保存活用

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌの人々の伝統的な住居であるチセの補修体験を通じて技術の伝承を推進することを目的として「アイヌ文化の森・伝承のコタン」にあるチセの補修を行った。 令和2年度はポンチセ1棟の補修とチセ保存活用ワークショップを実施。令和3年度はポロチセ1棟の建替に向けた準備作業として、ポロチセの解体や木材などの調達と乾燥、チセ保存ワークショップを実施した。令和4年度は令和3年度に解体したポロチセの建替とチセ保存ワークショップを実施した。	旭川市
事業の効果	
チセの計画的な補修や建替を通じて、高齢化が進み失われつつあるチセの補修技術などを若い世代に伝えることができた。	

### (2) 博物館収蔵アイヌ資料の整備推進

事業の進捗状況	事業実施主体
博物館資料の保存状態を維持し、館内展示や将来的な一般公開・情報提供などに活用するため、令和2年度に、旭川市博物館が所蔵する約50年前に録音されたアイヌ語音声資料のオープンリールテープ287本をデジタルデータ化を実施し、CDとHDDに保存したバックアップデータを整備した。 日常会話を中心とした音声資料と伝えられており、活用・公開にはプライバシーへの配慮が必要とされるため、今後は音声資料の調査研究を行っていく。	旭川市
事業の効果	
再生機器が失われつつあるオープンリールテープ資料の保存性を高め、今後の活用の基礎を	

築くことができた。

(3) アイヌ文化関連講座の実施

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>博物館で、アイヌ文化を広く一般に普及させるためにアイヌ語講座やアイヌ文様刺繍の講座などを開催したが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、三密の回避のため参加人数を制限するなどしたため、目標数値を達成できなかった。</p> <p>アイヌ語講座：令和2年度9回123人、令和3年度5回62人、令和4年度10回82人</p> <p>刺繍体験講座：令和2年度20人、令和3年度11人、令和4年度10人(回数はいずれも1回)</p> <p>初心者のためのアイヌ文様刺繍講座：令和2年度19人、令和3年度16人、令和4年度20人(回数はいずれも2回)</p>	旭川市
事業の効果	
講座や講習会の開催などを通じて、市民が気軽にアイヌ民族の歴史や伝統文化に触れ、理解の促進を図る機会を作り出すことができた。	

(4) アイヌ民族音楽会の開催

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>市内の小・中学校において、旭川チカップニアイヌ民族文化保存会によるアイヌ古式舞踊やムックル演奏を披露する音楽会を開催した。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、受け入れる小・中学校も学級閉鎖、学年閉鎖などが度々起こるなど、先々の予定を立てづらい中、令和4年度は当初予定していた10校で実施することができた。</p> <p>令和2年度7校、令和3年度7校、令和4年度10校</p>	旭川市
事業の効果	
児童、生徒のアイヌ文化への理解促進を図ることができた。	

(5) 体験学習に使用できるアイヌ民族資料の製作

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>今後の博物館での体験学習で使用するため、アイヌ民族資料の中から令和2年度は手甲、脚絆、帽子、前掛けを各1点、令和3年度は着物1点、令和4年度は帯1点、はちまき2点のレプリカを作成した。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、消毒の手間などを考えると利用がためらわれていたが、今後は積極的な利用を進めていく。</p>	旭川市
事業の効果	
体験学習に使用できるアイヌ民族資料を作成し、今後活用していく。また、その製作過程を記録して、技術伝承や広報活動等に活用していく。	

(6) アイヌ学習プログラムの推進

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>小・中学校の児童生徒が、バスの送迎付きで、博物館や川村カ子トアイヌ記念館を訪問して、アイヌの歴史や文化を体験する学習活動を促進した。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、小・中学校も学級閉鎖や学年閉鎖などが度々起こるなど、先々の予定を立てづらい中、令和2年度は合計16校、令和3年度は合計19校、令和4年度は合計23校の送迎を行うことができた。</p>	旭川市
事業の効果	
小・中学校の児童生徒がアイヌの歴史や文化を学ぶ学習活動を、博物館やアイヌ記念館において実施することにより、アイヌ民族に対する理解の促進を図ることができた。	

(7) アイヌ文化関連講習会の実施

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>アイヌ文化関連講習会として、毎年開催している刺繍講習、木彫講習、アイヌ民芸品展示会のほか、令和2年度は親子アイヌ文化体験(近文地区とアイヌの歴史・文化体験)事業、令和4年度はアイヌ料理講習会を実施した。</p> <p>各年度の講習会開催回数(延べ):令和2年度48回、令和3年度32回、令和4年度:47回</p> <p>また、令和3年度からは文化伝承事業を開催しており、令和3年度はアイヌ舞踊講習会、令和4年度はアイヌ舞踊講習会及びイノウ作り講習会を実施した。</p> <p>各年度の講習会開催回数(延べ):令和3年度10回 令和4年度36回</p>	旭川市
事業の効果	
新型コロナウイルス感染症の影響により予定どおりに実施できない講習会もあったが、講習回数の増加や文化伝承事業を行う等、内容の充実を図っており、市民がアイヌ文化を気軽に体験できる機会や、アイヌ文化の担い手を育成する機会を提供することで、アイヌ文化への理解と伝承の促進を図ることができた。	

(8) アイヌ自身によるアイヌ文化紹介の小冊子の制作

事業の進捗状況	事業実施主体
令和2年度に川村カ子トアイヌ記念館の歴史や収蔵品等を紹介する小冊子を2万部作成した。	旭川市
事業の効果	
小冊子の完成が年度末となったことからその活用は令和3年度となるが、アイヌ自身の視点からアイヌ文化を語る、これまでにない内容のアイヌ文化理解促進のための小冊子を制作すること	

ができた。

(9) 知里幸恵顕彰事業の実施

事業の進捗状況	事業実施主体
令和4年の知里幸恵没後100年を記念し、幸恵の業績を称える「知里幸恵を偲ぶ会」の開催や、『アイヌ神謡集』、知里幸恵文学碑等の内容を紹介する動画の作成、アイヌ文化伝承者による知里幸恵を称えるタペストリーの製作といった各種事業を実施した。	旭川市
事業の効果	
没後100年を記念した各種事業を実施することにより、知里幸恵や『アイヌ神謡集』についての理解の促進を図ることができた。	

(10) アイヌ語地名の普及促進

事業の進捗状況	事業実施主体
アイヌ語地名表記推進懇談会委員の意見を参考に、「アイヌ語地名表示板」の製作・設置や、アイヌ語地名を紹介する講座、アイヌ語地名表示板を巡るバスツアーを実施した。 令和2年度:「タンネ ムム/永山3号川」の製作、アイヌ語地名表示板紹介講座の開催 令和3年度:「ピピ、ピブ/比布川」の製作、アイヌ語地名講座の開催 令和4年度:「テレク ウシ ナイ/南校川」の製作、アイヌ語地名バスツアー、アイヌ語地名講演会の開催 新型コロナウイルスの感染拡大の影響などによりバスツアーや講座の定員を減らさざるを得なかったが、今後もそれらの事業を通じて、市内各所に設置したアイヌ語地名表示板を活用していく。	旭川市
事業の効果	
アイヌ語地名表示板やそれを活用した事業によって、アイヌ語地名の普及促進を図ることができた。	

(11) 「アイヌ文化ふれあいまつり」の開催

事業の進捗状況	事業実施主体
市内中心部で開催される「食べマルシェ旭川」に連動する形で開催する予定だったが、令和2年度、令和3年度は「食べマルシェ旭川」が新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止となり、令和4年度は開催されたもののステージイベントは自粛となったため、令和2年度から4年度までアイヌ古式舞踊などや食文化を紹介する動画を撮影しオンラインでの公開を主として行った。 令和2年度:アイヌ古式舞踊動画、食文化紹介動画 令和3年度:アイヌ古式舞踊動画、博物館内でアイヌ工芸品の特別展	旭川市

示	
令和4年度:ムックル演奏動画, アイヌ口承文芸動画, 木彫講座の開催	
事業の効果	
上川アイヌの文化と伝統をオンラインで紹介することができた。	

(12) 「アイヌ文化に親しむ日」の実施

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>文化の日に、博物館でアイヌ文化の体験活動や講演会、ワークショップ等を実施した。例年この日は旭山動物園の冬期開館日と重なるため、天気が良かったり気温が高いと動物園が、天候が不順だったり気温が低いと屋内施設が混み合うことが多い。</p> <p>令和2年度:1,243人、令和3年度 1,359人、令和4年度 790人と1割増から4割減となっているが、令和4年度は前年度より気温は低かったものの雨はほとんど降らず、客足が動物園を始め屋外施設に流れてしまったものと思われる。</p>	旭川市
事業の効果	
アイヌに関する講話や体験を通じてアイヌ文化の紹介を行った。	

(13) 観光受入体制の充実

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>令和2年度に観光モデルコースとして「めぐる ふれる カムイを感じる(教育旅行)」、「レラ・ル(サイクリングコース)」、「ホユツパ(ランニングコース)」を開発し、パンフレットやデジタルマップを作成。アイヌ文化と産業を学ぶ課題研究型モデルコースを選定した他、北海道内のスポーツ関連施設等にパンフレット設置を行い、コロナ禍において、屋外アクティビティとしてサイクリングやランニングを通して、アイヌ文化等に気軽に触れることのできる新しい形を創造した。</p> <p>前年度の取り組みを踏まえ、令和3年度は、「スポーツ×文化」を楽しく体験できる「アプカシ・ロゲイニング」を実施。アフターコロナを見据えたイベント型の取り組みとして、サイクリング・ランニング・ウォーキングでの参加とし、地方都市の課題でもある公共交通機関(バス)の利用も取り入れた形で行った。また、イベント実施後の参加者のフィードバックを基に「アプカシ・ロゲイニングマップ」の作成も行い、本市に訪れる観光客が旅の楽しみ方の一つに「アプカシ・ロゲイニング」を選択できるものとした。更にアイヌ文化ガイド育成に寄与するアイヌ文化関連スポット解説動画を作成した。</p> <p>令和4年度は、旭山動物園にいる北方動物や旭山公園に生息する野草等を中心に東旭川エリアのアイヌ文化関連情報等を発信するためのWEBマップを作成した。また、インバウンド需要の回復・ATWSを見据え、</p>	旭川市

<p>前年度に作成したアイヌ文化ガイド育成動画の翻訳作業を行い、外国人観光客の受入体制を整え、地元の高校生を対象にアイヌ文化ガイド育成を目的としたモニターツアーを実施した。</p>	
<p>事業の効果</p> <p>令和2年度の観光モデルコース開発におけるパンフレット作成実績としては、「めぐる ふれるカムイを感じる 300部」、「レラル・ル、ホユツパ 各1,000部」であり、札幌市と旭川市のスポーツ関連施設約43カ所に「レラル・ル」、「ホユツパ」のパンフレットを設置。「めぐる ふれるカムイを感じる」に関しては、「月刊教育旅行2月号」に掲載し、全国に向けて本市の情報発信を行った。また、サイクリングコース掲載サイトである「たびりん、自転車大好きマップ、Enjoy Sports Bicycle」の3媒体を通じて、「レラル・ル」の情報発信を行い、本市の取り組み内容の周知を図った。新型コロナウイルスによる市場変化に対応した新規のモデルコース等の作成により、今後の「スポーツ×文化」の需要拡大に期待できる。</p> <p>令和3年度に開催した「アプカシ・ロゲイニング」はアフターコロナを見据えたイベントとして開催。新型コロナウイルスの影響を考慮して参加者数を絞り、28名が参加した。アンケート調査の中でイベント満足度について質問したところ、イベント自体の満足度が高く28人中27人(1人未回答)がアプカシ・ロゲイニングのような「歴史・文化」と「スポーツ」の組み合わせについて「面白いので取り組むべき」と回答があった。アフターコロナに向けてイベント需要の高さを実感すると共に継続的なイベント展開が期待できる。アイヌ文化ガイド育成動画に関しては「4本」作成し、WEB上で発信することで、アイヌ文化における理解促進に繋がった。</p> <p>令和4年度は、東旭川エリアのアイヌ文化関連情報を発信するためのWEBマップを作成し、本市の公式ホームページ等で周知を図り、身近にあるアイヌ文化への理解を深めた。アイヌ文化ガイド育成動画に関しては、インバウンド向けに「英語:5本、繁体字:5本」の翻訳作業を行った。インバウンド需要の回復とATWSを見据えた事業展開を図ることができた。また、アイヌ文化ガイド育成動画を活用し、ガイド育成を目的としたモニターツアーを実施。16名の高校生が参加し、地元のガイド育成に寄与した。</p>	

(14) 観光イベントにおけるアイヌ文化の発信

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>令和3年度に開催予定であった「こたんまつり」、「旭川冬まつり」が新型コロナウイルスの影響により中止となったため、代替え事業である「アイヌ伝説が残るスポットに関する映像制作」、「冬期間見学可能なアイヌ文化関連屋内施設の映像制作」を行った。</p> <p>令和4年度も「こたんまつり」は中止となり、代替え事業として「こたんラリー」を開催。(市内のアイヌ文化関連施設等をめぐるスタンプラリー)「旭川冬まつり」は規模縮小により代替え事業として、冬まつり会場にアイヌ文様がデザインされた看板を設置した。</p>	旭川市
<p>事業の効果</p>	
<p>令和3年度、「アイヌ伝説が残るスポットに関する映像制作 2本」、「冬期間見学可能なアイヌ文化関連屋内施設の映像制作 2本」を行い、こたんまつり開催場所である神居古潭や閑散期</p>	



である冬期間に利用可能な旭川市博物館等の施設についてWEB上で発信することができ、アイヌ文化への理解を促進した。

令和4年度開催の「こたんラリー」では、アイヌ文化関連施設5スポットを取り入れたスタンプラリーを実施し、プレゼント応募件数「124件」、アイヌ文化関連施設5スポット訪問者合計「201人」、東京都や神奈川県等の市外の方も参加され、アイヌ文化に関連する理解を促進した。また、旭川冬まつり会場に「5つ」のアイヌ文様入りの看板を設置し、アイヌ文化を身近に感じることができる空間を創出した。

(15) アイヌ文化施設の整備

事業の進捗状況	事業実施主体
川村カ子トアイヌ記念館の機能充実のため、令和2年度の「新館」基本構想(展示等)作成、令和3年度の基本設計・実施設計作成、令和4年度の新館建設に対し、補助金を交付した。	川村カ子トアイヌ記念館
事業の効果	
川村カ子トアイヌ記念館を、旭川市アイヌ施策推進地域計画の目標である「アイヌ文化を生かすまちづくり」の拠点施設としての機能を発揮する施設とすることを目指し、同館が実施する新館の建設を支援することにより、令和5年度の新館開設に向けた整備事業を進めることができた。	

(16) 上川アイヌ聖地の観光案内整備

事業の進捗状況	事業実施主体
令和3年度、国道沿いに日本遺産でもある「アイヌ文化の森 伝承のコタン」への観光誘導を目的とした看板を設置。また、アイヌ文化の森 伝承のコタンを中心とした上川アイヌ聖地一帯の観光WEBマップを作成した。	旭川市
令和4年度、インバウンド回復を見込んで、前年度に作成したWEBマップの翻訳作業を行い、多言語化したWEBマップの二次元コード化したものを看板デザインに落とし込み、観光看板を設置。また、上川アイヌ聖地に関連した動画の翻訳作業を行った。	
事業の効果	
令和3年度に設置した「アイヌ文化の森 伝承のコタン」看板(1基)により観光客の誘導(国道から)を行うことができた。また、WEBマップの作成により上川アイヌ聖地一帯の情報を一元化し、WEB上で発信知ること、地域一帯のブランド価値を高め、認知度の向上を図ることができた。	
令和4年度は、バス停から離れている「アイヌ文化の森 伝承のコタン」の誘導を目的とした「日本語・英語・中文(簡体字・繁体字)、韓国語」に対応した二次元コード付の観光看板を1基設置し、今後のインバウンド需要に対応することができた。また、ATWSを見据え、上川アイヌ聖地に関連した動画の翻訳を「4本」行った。	

(17) 生活館の整備

事業の進捗状況	事業実施主体
---------	--------

<p>建物の長寿命化を図るため、令和2年度には市民生活館の屋上防水改修を行った。建物以外では、暖房器具取替等(令和2年度)、床貼り替え修繕等(令和3年度)、ガス検知器取替、水廻り修繕等(令和4年度)を実施しており、令和3年度以降は毎年計画的に屋内照明器具の取替(LED化)を行っているところである。そのほか、音響設備等の購入(令和2年度)、会議用テーブルの購入(令和3・4年度)、AED購入(令和4年度)等、設備の整備も進めている。</p>	<p>旭川市</p>
<p>事業の効果</p>	
<p>市民生活館及び近文生活館の老朽化対応のため、必要な設備について整備を実施することができた。</p>	

### 3. 今後の方針等

<p>中間評価においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各指標とも目標未達成となっているが、より効果的な事業となるようアイヌ関連団体との意見交換を行い、アイヌ文化の保存と伝承、理解の促進を図るとともに、その魅力の活用と内外への情報発信を行いながら、引き続き各種取組を推進していく。</p>
--